

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275100382		
法人名	有限会社ケアサポート・豊田		
事業所名	グループホームすきっぷ (1階)		
所在地	静岡県焼津市保福島1251		
自己評価作成日	平成29年6月12日	評価結果市町村受理日	平成29年8月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2275100382-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2275100382-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成29年7月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①瀬戸川の近くに建設してあり、四季折々の自然の中で、散歩、レクリエーション、等楽しむ事ができます。②玄関の戸は夜間以外開けてあります。利用者に閉じ込められている圧迫感はありません。気楽に内と外に行き来できるよう心がけています。③入浴は清潔を保つため、また身体の異常がわかるよう週2回以上入られ入浴されない日は寝る前に清拭を行っている。清拭の日でも、本人希望されれば入浴可能又皮膚疾患等で入浴が必要な時は毎日入浴又はシャンプー浴等で対応しています。④地域に根づいた伝統的な行事を大切にしています。⑤旬な食材を取り入れた献立を作成し、行事食に努めています。ボランティアの皆様の応援があり、色々な活動が活発に行われています。⑥個別ケアを重視しその方にあったレクリエーションや過ごし方を常に考え支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関先では季節の花が沢山のプランターに咲き誇り、食卓にのぼる野菜も育てられていて、気持ち良く訪問できる事業所です。開設から14年となり経年劣化した外壁を一新し、併せて駐車場を広くし、今後は壁紙等内部のリフォームに着手の予定で、保養にも余念がありません。トイレのパット、脱衣スペースでの塗り薬の表示を部屋番号で表示することが定着し、食事の場面では本人の体格や状態を鑑みた個別の椅子が導入されており、至るところに職員の真摯な姿勢が覗え、見学のなかで小さな驚きが続くとともに、その人の現在のADLに応じてケアの提供方法を替えていることが十二分に伝わり、大いに感心します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲げ全職員共有している。ご利用者の尊厳を守り安心、安全、安楽の介護を志している。内部研修にて理念について研修している。	玄関掲示、カード携帯が慣行され、また新採者には代表自ら講師となつての研修を通じて意識づけられています。また代表者も悩み事や困難に遭遇したとき、理念を見上げて初心を取り戻し、常に指針としています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	この地域になくはならない施設となるよう心掛けられている。月1度の地域ミニデイサービスへの参加、運営推進会議における自治会役員、民生委員、地域市議会議員に参加していただき、少しでも多くの方々に、ホームの存在と意義等を理解してもらえる様に努めている。	地域行事には必ず祝儀をだすよう努め、側溝清掃には事業所でトラックを提供しています。有事には弱者の引き受けを頼むと自治会からも打診されており、事業所利用者も地域で運営するミニデイサービスに月1回寄せられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症にかかわらず、介護の相談は随時受け入れている。災害があった場合要支援、要介護の方を受け入れる体制作りを第10自治会と構築しており、書面で覚書を締結している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員は利用者家族、行政機関、包括支援センター、自治会役員、地元市会議員、民生委員、有識者で構成している。日々のホームでの暮らしを説明し意見をj得ている。参考になるご意見が多く、議事録を残しスタッフ全員が情報を共有している。	第6町内会長、有識者、市議会議員、地域包括支援センター、民生委員とそれぞれの専門性を活かした話し合いが出来るメンバーが揃っています。特に凶暴な症状の利用者の事柄等困難事例について多岐に渡る知己に助けられています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開設以前準備段階の時より現在まで、焼津市地域包括ケア推進課には大変お世話になっている。判らないことはその都度聞いている。また相談員の派遣の依頼にも積極的に応じている。	「認知症 みんなで見守る まちづくり」と描かれた焼津市の幟旗を玄関前に立て日々啓蒙活動に寄与するほか、今回27回目の開催となるグループホーム連絡会にも積極的に出席しています。介護事業組合の発足にも関わり、公の立場でも地域福祉に尽力しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言をしている。利用者の行動を拘束しないようなケアのあり方を職員間で話し合い、行動の見守りに重点をおいたケアを行っている。日中は玄関の施錠はしていない。身体拘束はしない。	ゼロ宣言をおこない、現在必要な症状の利用者もいません。嵐のなか説得した日もあった帰宅願望の利用者のことについては運営推進会議でも議題に挙げ、透明性に努めるとともに「よりよい改善向上」を進めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、精神的な虐待がないよう留意し、日々の生活を観察し、身体的又は精神的な状況をチェックしていく。権利擁護、虐待について内部研修を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学んできたスタッフにより内部研修を行い、話し合う場を持ち、スタッフ全員がその必要性を理解する。以前利用者の中に成年後見制度を必要とされる方があり、市に相談に行き、弁護士を紹介され、家族と一緒に勉強した。成年後見制度を利用する方が増えているため、よりよく理解していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時又は解約時はもちろん、不安や疑問点について具体的に説明を行っている。いつでも相談しやすい環境づくりを整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に利用者が話しやすい雰囲気作りに努めている。又直接話づらい方のため目安箱(苦情・ご意見箱)を設置している。毎月その月の利用者の様子をお伝えし、写真を貼ったすきっぷだよりをお渡しし、ご意見があればお聞きしている。	写真入りのすきっぷ便りを発行するほか、家族会を止めてサービス担当者会議を充実させることで相互理解による友和を図っています。また介護計画書や、こづかい帳の推移を説明すると、「やりくりしてもらえてありがたい」との感謝の言葉も届いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月給料袋に待遇についての理解度、アンケートを書いてもらい職員の思っていること、意見を理解している。他に、月に1回のミーティングや、毎日の交代時の申し送り、伝達ノートなどから、職員の意見や提案をくみ取り、反映させている。	毎月代表者に気持ちや意見を伝える仕組みを作り、職員と風通しのよい関係を築いています。休憩時間の確保と個別レクリエーションの活性化を目的とする入浴時間の変更も職員意見から実現したことです。	パートタイマー職も定着率が高く、年々高齢化していることは否めず、今後の健康管理や安全管理についてどのように協力し合えるかといったことも職員間で協議できると、なお良いと思います。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が管理者を兼務しているのでスタッフの性格や能力等を把握している。各自の努力を認め、意見の言える風通しの良い、働きやすい職場づくりに努め、資格を取り、介護技術の向上ができる環境作りを目指している。キャリアパス制度の導入、給与については満床状態の維持と処遇改善加算、介護保険料等の国の施策に期待したい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修を積極的に推進している。内部研修は毎月テーマを決めて行い、個々の経験、就業年に応じた、必要と思われる研修には参加するよう指導している。また、研修後はミーティング等で情報を共有しスタッフの知識の向上に努めている。今後も県介護福祉士会の協力のもと、内部研修を積極的に行っていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1度市内のグループホームが集まりさまざまなテーマについて話し合いをしている。司会と開催場所を持ち回りにして行っている。すきっぷでは経験を積ませる為に、毎回職員を変え2名の職員が、会議に出席している。静岡介護事業組合を創立。組合間交流にて人材の育成を図りたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際、本人、家族の要望、ニーズを理解し、安心、満足出来るホームの生活が送れるよう、信頼関係の構築に努める。アセスメントをしっかりと行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望をよく理解しニーズにこたえられるよう努力し、信頼関係を築くよう努めている。アセスメントをしっかりと行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、ご家族のニーズを見極め、本人が適切とされるサービスを受けられるよう努める。特にご家族に相談し、助言をいただく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とスタッフは日常生活を共有することで、年長者(親)を大切に家族のような、信頼関係を築いていくよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々、利用者の様子を家族に伝え、本人の思い(ニーズ)を家族に伝えることで本人、家族、スタッフの絆を深め、同じ気持ちで利用者をささえている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症になっても、慣れ親しんだ地域で暮らせるよう地域密着型施設としてグループホームが存在する。友人や近所の方々が面会しやすい雰囲気作りに努め、またいつでも家にいけるよう努めている。個人の精神的安定を優先し、家族との距離をおきながらより良い関係作りの接点を見出すことに努めている。	支払いを振込みに替えてから家族が毎月足る運ぶ理由がなくなってしまう、面会数も減る傾向にあるため、事業所で検討して家族と利用者、職員のふれあいを中心とした夏祭りを企画しています。馴染みの婦人公論を定期購読する人もいて、踊り場には雑誌ラックも置かれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進み具合を考え、一人一人の生活歴や性格を把握し、利用者同士が関わり合い、支えあえるよう、支援している。また利用者が孤立することのないよう、常に見守りに、努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の相談や次の施設の検討、アドバイスをおこなっている。退所された方の、次の施設、病院にお見舞いに行っている。御家族も本人の様子を私たちに知らせてくれる関係が築かれている。ご利用者が死亡しても、ご家族がすきっぷを訪問してくれる関係が出来ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活が苦手な方、他の方とあまり関わりたいくない方、自分の意見をあまり言えない方等個々の思いや希望を出来るだけ取り入れているが、困難な場合は家族や職員間でよく話し合い、本人の思いを大切にしながら、介護計画に反映させている。	オープン時には夜入浴していたこともありましたが、1日の流れをつくるためにも午前早めに入浴を開始して個別レクリエーションを実施できるようになり、自己有用感を高めることができている。夏でも「寒い」という人のためにインターネットで携帯カイロを購入する例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族、本人の希望を聞き、取りいれている。職員は常に利用者の尊厳を支える為、生活歴を把握し、それを活かしたケアを行っている。又センター方式を必要に応じて活用しながらその人らしいあり方を支えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人のより細かな観察を行い毎日の生活の中で変化を見逃さず、落ち着いた穏やかな生活が保たれるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の言葉や訴え、また家族の面会時での会話の中から計画作りに反映するように心がけている。細かい部分の介護については敏速な伝達と申し送り、伝達ノートにより統一性をもたせている。担当者会議を開催し、ご家族も交え話し合い、ケアプランを作成している。	ケアチェック表とセンター方式の一部を取入れてモニタリングをおこなった結果を居室担当が集約して発表することで、他の職員の意見も挙がり、精査と共有につなげています。計画作成担当者は研修中1名を含み5名、介護支援専門員3名と習熟者も豊富です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の業務日誌はもちろん、あらゆる記録をつけている。毎月、全体ミーティング時にカンファレンスを実施し、サービス計画見直し等を担当者が中心となって行っている。状態変化時は申し送りの時間を利用して、随時見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の進行、身体的介護が重くなり、パットやリハパン、その他日常生活に必要な品の購入、医療機関への送迎、説明、認定調査の代行等必要なニーズに合わせて柔軟にサービスを提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のミニディサービスへの参加、自治会、民生委員の皆様にもグループホームの理解と協力の要請。近隣のボランティアの皆様との連携活動への参加等地域資源を活用し、ご協力を得ながら支援している。地元保育園との交流も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による2週間に1度の往診実施、緊急時の往診、24時間いつでも連絡の取れる体制等を含め、利用者に適切な医療が受けられることにより安心を提供している。必要に応じて受診同行している。	在宅の頃のかかりつけ医を継続している人3名は家族が受診に付き添い、戻ってきたときに変更点や注意点を知らせてもらえます。大半が月2回訪問診療のある協力医に変更し、薬が変わったなど連絡すべきことがあれば電話を入れています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と常に相談しながら、健康管理や医療活用の支援をするとともに、提携医の看護師とも密に連絡を取り合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員、担当ドクター、担当ナースと密に連絡を取り合い、必要に応じて家族を交えて話し合いを行い、退院に向けての支援を行っている。また協力医療機関との話し合いや、情報提供などを行えるよう連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に頻繁に経過説明を行い、必要に応じてかかりつけ医と家族等と繰り返し話し合い、全員で方針を決めている。看取りは行わないことを家族に説明し理解を得ている。	「看取りはしない」としています。介護度1の入居で10年余を過ごして5となり、食べ物が喉を通らなくなって点滴や胃瘻が求められ療養型へ移転したケースがある一方で、「家が片付くまで」と家族依頼で預かりそのままお見送りをしたという例もあり、看取りは家族の選択に委ねています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命、応急手当訓練の講習があれば、積極的に呼びかけ、参加するようにしている。内部研修で救急時の訓練を行う。ミーティング、防災訓練時を利用して、応急手当訓練を定期的に行っている。救急車の手配、バイタル測定、氏名、年齢既往歴等すぐ言えるようマニュアルを作成し訓練を重ねている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地震、津波、火災の防災訓練を実施している。消防署への連絡、初期消火、避難訓練、地区の避難訓練参加、近所に普段から協力依頼をしている。スプリンクラー設備設置 現在は2階への避難訓練がメインになっている。瀬戸川が隣にあり、これからは河川の氾濫、決壊に対する避難訓練も重要と認識している。	「魚を焼いて大きな火がでたことに驚いた職員が思わず消火器で消した」とい最近の珍事では、2階の利用者が無事短時間で下に集合出来予期せぬ訓練となりました。年2回の訓練に近所から参加はないものの、困ったときはお互い様との地域であることから応援の心配はありません。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の生活歴、病歴等を把握し、心身の状況把握に努め、気を配るよう努めている。人生の先輩だということを常に念頭に入れ、尊敬の気持ちを忘れずに接する。	毎月の給与袋に接遇に関する内容を振り返る機会を設けている成果なのか、トイレのパット、脱衣スペースでの塗り薬の表示等を部屋番号で表示することがそこかしこに浸み込んでいて、プライバシー確保が徹底されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の気持ちを伝えることができるような環境作り。利用者の言語的コミュニケーションだけでなく非言語的コミュニケーション(表情、仕草、行動)にも十分注意しながらその人の意思や希望が表出できるよう、また自己決定ができるよう支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	、日常生活や行動観察により、その人らしい暮らしとは何か？を考え、スタッフ間で意見交換し、本人の希望やペースに沿った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理・美容を利用しているが、利用者の希望に応じて馴染みの店に行けるよう支援(家人への連絡)している。衣類、装飾品、化粧品など長年の生活様式を大切に、家人にも協力を依頼し、支援している。又、希望に応じて買い物に付き添うなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を出来る限り使用したり、行事食(例・正月→おせち、雑煮、お盆→おはぎ)等を大切に慣れ親しんだ、季節の慣習で話題づくりをしている。毎食事の支度、片付けも一緒に行う。一覧表を作成し、全員の嗜好品の把握をしている。献立作成時はリクエストを取り入れて作成している。	季節の食材を家庭的に調理して、職員手作りで提供されています。ADLの状態が異なるため1階がトレイ、2階はランチョンマットとしていることから、一辺倒なやり方をしないケアの蔓延が視えます。また誕生日にはお赤飯を炊き、年18回は確実に寿ぎの日を味わっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録バイタルチェック表にて食事摂取量のチェックを行っている。又食事以外にも水分補給の時間をもうけこまめに摂取するようにしている。バランスの良い食事が摂れるよう献立作成に気をつけている。(毎食事スタッフは利用者と同じテーブルにつき様子観察することにより、咀嚼、嚥下の状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、スタッフ見守りの中にて、口腔ケアを実施している。自力では困難な場合も、その方にあった対応の仕方、介助を実施し清潔保持に努めている。月、木→ポリドント・水→口腔ケア用品の消毒日と決め清潔に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、声かけ・誘導を行い、トイレでの排泄を促している。又可能な限りリハビリ→布パンツ、パット使用→パットなしへの移行に努めている。情報を共有し話し合っている。	各ユニット4箇所と十分な数のトイレを備え、「オムツであっても日中はトイレで座って～」として2人介助での対応の人も1名います。また「オムツをしないように」「パットなし」への取組みは、本人の気持ち良さに加えて家族の経済的負担を軽くしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解している。毎日の介護記録表の記入により排便状況がすぐ確認できる。必要に応じてセンター方式を使用し利用者個人に適した排便ができるよう支援している。個々の状況に合わせ牛乳、ヨーグルト等個人購入をしている。又バランスの良い献立作成(食物繊維)に努める。体操、レク散歩の参加を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の身体的負担を考慮し、入浴、入浴をしない日でも清拭、清拭日でも本人希望があれば入浴可能。(又皮膚疾患等で入浴が必要な場合は毎日入浴、シャンプー浴で対応している。)を実施しており、身体の清潔保持に努めている。又安心して入浴できるような声かけ、介助に入るのほもちろんだが環境整備にも留意している。	5Sが行き届き、モノがあるべき場所に収まった気持ちの良い脱衣スペースと浴室です。夏場は汗をかきやすいこともあり入浴、清拭を日毎で繰り返すのを基本とし、汚れがあった場合は毎日となることもあります。介助はマンツーマンで、本音を語る場へと昇華しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の個々の状態により昼寝を勧めたり、ソファや畳部屋でも休めるよう(足を伸ばす)声かけをしている。又夜間安眠できるよう騒音や照明、室温等に配慮している。週1度シーツ洗濯、布団干しを実施し、清潔に留意している。不眠の訴えには傾聴し、精神的安定を図るよう努めている(例 温かい飲み物を提供)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各カルテに処方箋を置いてあり、又変更があった際は伝達ノートにその都度記入し、スタッフ1人1人がしっかりと確認できるようになっている。服薬についてもしっかりと確認、誤薬がないようにダブルチェックや内服確認シートの活用などに努めている。副作用についても理解を深めている。H29年度は〇月に「薬について」の内部研修をナース講		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の残存能力を大切に、最大限生かせるよう、出来る限りの支援をしている。調理、掃除、洗濯、園芸、レク活動、買い物など個々の生活歴を尊重しつつ今後の生活に自信と誇りをもたらすよう支援している。本人、家族からの情報収集、現在、過去における利用者の生活歴や好み、人、物などを知ることによりより良いケアが出来るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	出来る限り希望に添えるようにしている。人員、季節、天候、利用者の状況、トイレの確保等、条件が揃えば少人数での近隣のお散歩、やドライブなどは実施している。	春秋のドライブ外出が身体状態の衰えなどから途絶え、現在は玄関前での外気浴、散歩のほか、小グループでの100円均一爆買(1000円程度)も恒例となっています。玄関前の野菜や花の水やりを日課とする人もいます。	法人内の他事業所の支援も視野に入れつつ、春秋の外出行事が復活することを期待します。



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として、お金は持たせない。無くなっても良い程度のお金は家族同意のもと許可している。利用者の個々の状態に応じて、お金を所持しており、希望があれば買い物等に行けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があれば随時対応できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光が無いよう、職員は心がけている。花は1年中職員と利用者が水やりを育てている。今年は野菜苗を植え、成長、収穫が楽しみである。ホーム内には季節の草花を飾ったり、時節にあった(雛人形など)飾り物、利用者スタッフの手作り等を取り入れ、居心地の良い空間を演出している。	開設から14年となり、駐車場を広くして外壁を一新させ、今後は内部のリフォームに着手の予定です。和室はこあがりのため現在使う利用者はいませんが、個々の洗濯ものたたみの籠を並べる場所として家事リハビリを向上させることや、ボランティアの舞台として役立てられています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間は広くとり、廊下、玄関や芝生等に腰掛やソファを置きリラックスできる空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた物、好みの物をお持ちいただき、使用していただいている。入所中に必要になった物は、本人の好みの品物を尊重している。	その人らしく暮らすことを念頭にチェストやテレビや目覚まし時計が持ち込まれています。本人の大好きな人形やクラフト作品が溢れ、また編み棒や鉛筆、雑誌が無造作に置かれ、まるでアパートの一室のような居室も視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は手すり、段差の解消等、安全に配慮している。又個々のレベル状態を把握しながら、自立した生活を送れるよう、支援している。夜間等危険行動のある方に対し家族の同意を得てモニター、センサーを使用して事故を未然に防ぐよう努力している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275100382		
法人名	有限会社ケアサポート・豊田		
事業所名	グループホームすきっぷ (2階)		
所在地	静岡県焼津市保福島1251		
自己評価作成日	平成29年6月12日	評価結果市町村受理日	平成29年8月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2016_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2275100382-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2016_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2275100382-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年7月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①瀬戸川の近くに建設してあり、四季折々の自然の中で、散歩、レクリエーション、等楽しむ事ができます。② 玄関の戸は夜間以外開けてあります。利用者に閉じ込められている圧迫感はありません。気楽に内と外に行き来できるよう心がけています。③入浴は清潔を保つため、また身体の異常がわかるよう週2回以上入られ入浴されない日は寝る前に清拭を行っている。清拭の日でも、本人希望されれば入浴可能又皮膚疾患等で入浴が必要な時は毎日入浴又はシャンプー浴等で対応しています。④ 地域に根づいた伝統的な行事を大切にしています。⑤ 旬な食材を取り入れた献立を作成し、行事食に努めています。ボランティアの皆様の応援があり、色々な活動が活発に行われています。⑥個別ケアを重視しその方にあったレクリエーションや過ごし方を常に考え支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関先では季節の花が沢山のプランターに咲き誇り、食卓にのぼる野菜も育てられていて、気持ち良く訪問できる事業所です。開設から14年となり経年劣化した外壁を一新し、併せて駐車場を広くし、今後は壁紙等内部のリフォームに着手の予定で、保養にも余念がありません。トイレのパット、脱衣スペースでの塗り薬の表示を部屋番号で表すことが定着し、食事の場面では本人の体格や状態を鑑みた個別の椅子が導入されており、至るところに職員の真摯な姿勢が覗え、見学のなかで小さな驚きが続くとともに、その人の現在のADLに応じてケアの提供方法を替えていることが十二分に伝わり、大いに感心します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲げ全職員共有している。ご利用者の尊厳を守り安心、安全、安楽の介護を志している。内部研修にて理念について研修している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	この地域になくてはならない施設となるよう心掛けられている。月1度の地域ミニディサービスへの参加、運営推進会議における自治会役員、民生委員、地域市議会議員に参加していただき、少しでも多くの方々に、ホームの存在と意義等を理解してもらえる様に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症にかかわらず、介護の相談は随時受け入れられている。災害があった場合要支援、要介護の方を受け入れる体制作りを第10自治会と構築しており、書面で覚書を締結している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員は利用者家族、行政機関、包括支援センター、自治会役員、地元市議員、民生委員、有識者で構成している。日々のホームでの暮らしを説明し意見を得ている。参考になるご意見が多く、議事録を残しスタッフ全員が情報を共有している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開設以前準備段階の時より現在まで、焼津市地域包括ケア推進課には大変お世話になっている。判らないことはその都度聞いている。また相談員の派遣の依頼にも積極的に応じている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言をしている。利用者の行動を拘束しないようなケアのあり方を職員間で話し合い、行動の見守りに重点をおいたケアを行っている。日中は玄関の施錠はしていない。身体拘束はしない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、精神的な虐待がないよう留意し、日々の生活を観察し、身体的又は精神的な状況をチェックしていく。権利擁護、虐待について内部研修を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学んできたスタッフにより内部研修を行い、話し合う場を持ち、スタッフ全員がその必要性を理解する。以前利用者の中に成年後見制度を必要とされる方があり、市に相談に行き、弁護士を紹介され、家族と一緒に勉強した。成年後見制度を利用する方が増えているため、よりよく理解していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時又は解約時はもちろん、不安や疑問点について具体的に説明を行っている。いつでも相談しやすい環境づくりを整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に利用者が話しやすい雰囲気作りに努めている。又直接話づらい方のため目安箱(苦情・ご意見箱)を設置している。毎月その月の利用者の様子をお伝えし、写真を貼ったすきっぷだよりをお渡しし、ご意見があればお聞きしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月給料袋に待遇についての理解度、アンケートを書いてもらい職員の思っていること、意見を理解している。他に、月に1回のミーティングや、毎日の交代時の申し送り、伝達ノートなどから、職員の意見や提案をくみ取り、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が管理者を兼務しているのでスタッフの性格や能力等を把握している。各自の努力を認め、意見の言える風通しの良い、働きやすい職場づくりに努め、資格を取り、介護技術の向上ができる環境作りを目指している。キャリアパス制度の導入、給与については満床状態の維持と処遇改善加算、介護保険料等の国の施策に期待したい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修を積極的に推進している。内部研修は毎月テーマを決めて行い、個々の経験、就業年に応じた、必要と思われる研修には参加するよう指導している。また、研修後はミーティング等で情報を共有しスタッフの知識の向上に努めている。今後も県介護福祉士会の協力のもと、内部研修を積極的に行っていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1度市内のグループホームが集まりさまざまなテーマについて話し合いをしている。司会と開催場所を持ち回りに行っている。すきっぷでは経験を積ませる為に、毎回職員を2名の職員が、会議に出席している。静岡介護事業組合を創立。組合間交流にて人材の育成を図りたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際、本人、家族の要望、ニーズを理解し、安心、満足出来るホームの生活が送れるよう、信頼関係の構築に努める。アセスメントをしっかりと行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望をよく理解しニーズにこたえられるよう努力し、信頼関係を築くよう努めている。アセスメントをしっかりと行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、ご家族のニーズを見極め、本人が適切とされるサービスを受けられるよう努める。特にご家族に相談し、助言をいただく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とスタッフは日常生活を共有することで、年長者(親)を大切にする家族のような、信頼関係を築いていくよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々、利用者の様子を家族に伝え、本人の思い(ニーズ)を家族に伝えることで本人、家族、スタッフの絆を深め、同じ気持ちで利用者をささえている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症になっても、慣れ親しんだ地域で暮らせるよう地域密着型施設としてグループホームが存在する。友人や近所の方々が面会しやすい雰囲気作りに努め、またいつでも家にいけるよう努めている。個人の精神的安定を優先し、家族との距離をおきながらより良い関係作りの接点を見出すことに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進み具合を考え、一人一人の生活歴や性格を把握し、利用者同士が関わり合い、支えあえるよう、支援している。また利用者が孤立することのないよう、常に見守りに、努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の相談や次の施設の検討、アドバイスをこなっている。退所された方の、次の施設、病院にお見舞いに行っている。御家族も本人の様子を私たちに知らせてくれる関係が築かれている。ご利用者が死亡しても、ご家族がすきっぷを訪問してくれる関係が出来ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活が苦手な方、他の方とあまり関わりたいくない方、自分の意見をあまり言えない方等個々の思いや希望を出来るだけ取り入れているが、困難な場合は家族や職員間でよく話し合い、本人の思いを大切にしながら、介護計画に反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族、本人の希望を聞き、取りいれている。職員は常に利用者の尊厳を支える為、生活歴を把握し、それを活かしたケアを行っている。又センター方式を必要に応じて活用しながらその人らしいあり方を支えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人のより細かな観察を行い毎日の生活の中で変化を見逃さず、落ち着いた穏やかな生活が保たれるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の言葉や訴え、また家族の面会時での会話の中から計画作りに反映するように心がけている。細かい部分の介護については敏速な伝達と申し送り、伝達ノートにより統一性をもたせている。担当者会議を開催し、ご家族も交え話し合い、ケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の業務日誌はもちろん、あらゆる記録をつけている。毎月、全体ミーティング時にカンファレンスを実施し、サービス計画見直し等を担当者が中心となって行っている。状態変化時は申し送りの時間を利用して、随時見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の進行、身体的介護が重くなり、パットやリハパン、その他日常生活に必要な品の購入、医療機関への送迎、説明、認定調査の代行等必要なニーズに合わせて柔軟にサービスを提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のミニディサービスへの参加、自治会、民生委員の皆様にもグループホームの理解と協力の要請。近隣のボランティアの皆様とのクレーション活動への参加等地域資源を活用し、ご協力を得ながら支援している。地元保育園との交流も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係が築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による2週間に1度の往診実施、緊急時の往診、24時間いつでも連絡の取れる体制等を含め、利用者に適切な医療が受けられることにより安心を提供している。必要に応じて受診同行している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と常に相談しながら、健康管理や医療活用の支援をするとともに、提携医の看護師とも密に連絡を取り合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員、担当ドクター、担当ナースと密に連絡を取り合い、必要に応じて家族を交えて話し合いを行い、退院に向けての支援を行っている。また協力医療機関との話し合いや、情報提供などを行えるよう連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に頻繁に経過説明を行い、必要に応じてかかりつけ医と家族等と繰り返し話し合い、全員で方針を決めている。看取りは行わないことを家族に説明し理解を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命、応急手当訓練の講習があれば、積極的に呼びかけ、参加するようにしている。内部研修で救急時の訓練を行う。ミーティング、防災訓練時を利用して、応急手当訓練を定期的に行っている。救急車の手配、バイタル測定、氏名、年齢既往歴等すぐ言えるようマニュアルを作成し訓練を重ねている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地震、津波、火災の防災訓練を実施している。消防署への連絡、初期消火、避難訓練、地区の避難訓練参加、近所に普段から協力依頼をしている。スプリンクラー設備設置 現在は2階への避難訓練がメインになっている。瀬戸川が隣にあり、これからは河川の氾濫、決壊に対する避難訓練も重要と認識している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の生活歴、病歴等を把握し、心身の状況把握に努め、気を配るよう努めている。人生の先輩だということを常に念頭に入れ、尊敬の気持ちを忘れずに接する。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の気持ちを伝えることができるような環境作り。利用者の言語的コミュニケーションだけでなく非言語的コミュニケーション(表情、仕草、行動)にも十分注意しながらその人の意思や希望が表出できるよう、また自己決定ができるよう支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	、日常生活や行動観察により、その人らしい暮らしとは何か？を考え、スタッフ間で意見交換し、本人の希望やペースに沿った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理・美容を利用しているが、利用者の希望に応じて馴染みの店に行けるよう支援(家人への連絡)している。衣類、装飾品、化粧品など長年の生活様式を大切に、家人にも協力を依頼し、支援している。又、希望に応じて買い物に付き添うなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を出来る限り使用したり、行事食(例・正月→おせち、雑煮、お盆→おはぎ)等を大切に慣れ親しんだ、季節の慣習で話題づくりをしている。毎食事の支度、片付けも一緒に行く。一覧表を作成し、全員の嗜好品の把握をしている。献立作成時はリクエストを取り入れて作成している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録バイタルチェック表にて食事摂取量のチェックを行っている。又食事以外にも水分補給の時間をもうけこまめに摂取するようにしている。バランスの良い食事が摂れるよう献立作成に気をつけている。(毎食事スタッフは利用者と同じテーブルにつき様子観察することにより、咀嚼、嚥下の状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、スタッフ見守りの中にて、口腔ケアを実施している。自力では困難な場合も、その方にあった対応の仕方、介助を実施し清潔保持に努めている。月、木→ポリドント・水→口腔ケア用品の消毒日と決め清潔に努めている。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、声かけ・誘導を行い、トイレでの排泄を促している。又可能な限りリハパン→布パンツ、パット使用→パットなしへの移行に努めている。情報を共有し話し合っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解している。毎日の介護記録表の記入により排便状況がすぐ確認できる。必要に応じてセンター方式を使用し利用者個人に適した排便ができるよう支援している。個々の状況に合わせ牛乳、ヨーグルト等個人購入をしている。又バランスの良い献立作成(食物繊維)に努める。体操、レク散歩の参加を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の身体的負担を考慮し、入浴、入浴をしない日でも清拭、清拭日でも本人希望があれば入浴可能。(又皮膚疾患等で入浴が必要な場合は毎日入浴、シャンプー浴で対応している。)を実施しており、身体の清潔保持に努めている。又安心して入浴できるよう声かけ、介助に入るのはもちろんだが環境整備にも留意している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の個々の状態により昼寝を勧めたり、ソファーや畳部屋でも休めるよう(足を伸ばす)声かけをしている。又夜間安眠できるよう騒音や照明、室温等に配慮している。週1度シーツ洗濯、布団干しを実施し、清潔に留意している。不眠の訴えには傾聴し、精神的安定を図るよう努めている(例 温かい飲み物を提供)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各カルテに処方箋を置いてあり、又変更があった際は伝達ノートにその都度記入し、スタッフ1人1人がしっかりと確認できるようになっている。服薬についてもしっかりと確認、誤薬がないようにダブルチェックや内服確認シートの活用などに努めている。副作用についても理解を深めている。H29年度は〇月に「薬について」の内部研修をナース講		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の残存能力を大切に、最大限生かせるよう、出来る限りの支援をしている。調理、掃除、洗濯、園芸、レク活動、買い物など個々の生活歴を尊重しつつ今後の生活に自信と誇りをもたらすよう支援している。本人、家族からの情報収集、現在、過去における利用者の生活歴や好み、人、物などを知ることによりより良いケアが出来るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	出来る限り希望に添えるようにしている。人員、季節、天候、利用者の状況、トイレの確保等、条件が揃えば少人数での近隣のお散歩、やドライブなどは実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として、お金は持たせない。無くなっても良い程度のお金は家族同意のもと許可している。利用者の個々の状態に応じて、お金を所持しており、希望があれば買い物等に行けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があれば随時対応できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光が無いよう、職員は心がけている。花は1年中職員と利用者が水やりを育てている。今年は野菜苗を植え、成長、収穫が楽しみである。ホーム内には季節の草花を飾ったり、時節にあった(雛人形など)飾り物、利用者スタッフの手作り等を取り入れ、居心地の良い空間を演出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間は広くとり、廊下、玄関や芝生等に腰掛やソファを置きリラックスできる空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた物、好みの物をお持ちいただき、使用していただいている。入所中に必要になった物は、本人の好みの品物を尊重している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は手すり、段差の解消等、安全に配慮している。又個々のレベル状態を把握しながら、自立した生活を送れるよう、支援している。夜間等危険行動のある方に対し家族の同意を得てモニター、センサーを使用して事故を未然に防ぐよう努力している。		